

三井高利書翰
 一、三月九日之午の書
 二、三月廿一日の書
 三、三月廿七日の書
 四、三月廿九日の書
 五、三月卅一日の書
 六、四月一日の書
 七、四月三日の書
 八、四月五日の書
 九、四月七日の書
 十、四月九日の書
 十一、四月十一日の書
 十二、四月十三日の書
 十三、四月十五日の書
 十四、四月十七日の書
 十五、四月十九日の書
 十六、四月廿一日の書
 十七、四月廿三日の書
 十八、四月廿五日の書
 十九、四月廿七日の書
 二十、四月廿九日の書
 二十一、五月一日の書
 二十二、五月三日の書
 二十三、五月五日の書
 二十四、五月七日の書
 二十五、五月九日の書
 二十六、五月十一日の書
 二十七、五月十三日の書
 二十八、五月十五日の書
 二十九、五月十七日の書
 三十、五月十九日の書
 三井高利
 三井高利書翰

三井高利書翰

三井高利妻壽讚書翰
 一、三月九日之午の書
 二、三月廿一日の書
 三、三月廿七日の書
 四、三月廿九日の書
 五、三月卅一日の書
 六、四月一日の書
 七、四月三日の書
 八、四月五日の書
 九、四月七日の書
 十、四月九日の書
 十一、四月十一日の書
 十二、四月十三日の書
 十三、四月十五日の書
 十四、四月十七日の書
 十五、四月十九日の書
 十六、四月廿一日の書
 十七、四月廿三日の書
 十八、四月廿五日の書
 十九、四月廿七日の書
 二十、四月廿九日の書
 二十一、五月一日の書
 二十二、五月三日の書
 二十三、五月五日の書
 二十四、五月七日の書
 二十五、五月九日の書
 二十六、五月十一日の書
 二十七、五月十三日の書
 二十八、五月十五日の書
 二十九、五月十七日の書
 三十、五月十九日の書
 三井高利妻壽讚
 三井高利妻壽讚書翰

三井高利妻壽讚書翰

口絵 三井高利夫妻の書翰

上 三井高利より四男高伴宛書翰（「家君御消息」六月廿七日付）

室町三井家旧蔵、三井文庫別館所蔵史料（未公開）

本紙 縦一五・〇cm×四七・三cm 軸装

推定年代 延宝四年（一六七六）高利五五歳、高伴一八歳

下 寿讃より二男高富宛書翰（「栄昌院様消息」正月十三日付）

伊皿子家旧蔵、三井文庫所蔵写真

推定年代 元禄九年（一六九六）寿讃六二歳、高富四四歳頃

延宝元年（一六七三）八月、三井高利は、江戸に二男高富、京都に長男高平を配置して、念願の江戸本町一丁目に呉服店進出を果たした。兄弟が未だ十九、二十才の頃である。下の弟達も次々に江戸と京都に送り出し、高利自らは松坂の地で総指揮を執り、仕入販売に関し、指示を出していた。この指示というのが専ら手紙で行なわれていたわけである。

寿讃は、仕事一筋の夫高利、子供達とその家族を支え、見守り続けてきた。その手紙は、心の細やかな、やさしい人柄の滲み出た文体であって、家族ばかりでなく、他の人々の動き、様子をもよく伝えている。

なお詳細は、本号史料紹介「三井高利関係書翰」を参照されたい。（樋口知子）